

2021 年度入学式 式辞

本日ここに、2021 年度東京理科大学入学式を挙げるにあたり、大学を代表して、ご挨拶申し上げます。

新入生の皆さん、大学院、専攻科に進学された皆さん、ご入学、ご進学まことにおめでとうございます。また、学生の皆さんを今日まで支えてこられたご家族の方々にも心よりお慶び申し上げます。この 1 年、新型コロナウイルス感染症の影響により、なにかと制約も多かったことと存じます。不安の中で学業に精進された皆さんを、こうして本学にお迎えできたこと、本当に嬉しく思います。なお、本日の式典では、感染症拡大防止の観点から、入場者は学生の皆さんと限られた関係者、ならびにご来賓の方のみに限らせて頂いています。本来であれば、ご家族の方々もお招きすべきところですが、この点、なにとぞご了承頂きますようお願い申し上げます。

さて、新入生の皆さんは、これから「大学」という新しいステージで学修を始めることとなります。既に将来の目標をしっかりと持たれた方もいらっしゃるでしょうし、専門分野の学修を楽しみにしている方も数多くいらっしゃると思います。学部学科が異なれば、学ぶ内容も大きく異なります。また、例えば「物理」を学ぶ場合、日本国内に限っても、多くの大学に物理を学ぶことのできる学科が存在します。それでは、皆さんがこの東京理科大学において、それぞれの専門を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか？本日は、まず、この問いかけをさせて頂きたいと思います。

東京理科大学で学ぶ意義、その答えを探するため、建学の精神をご紹介します。本学の建学の精神は、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」というものです。今は、英語で“Building a better future with Science”、「より良い未来を拓く」と表現することもあります。

東京理科大学の起源は、1881 年に創設された東京物理学講習所です。創設し

たのは、当時の東京大学理学部物理学科の卒業生を中心とした 21 名の若者達でした。平均年齢は 25 歳だったと伺っています。彼らは、それぞれの藩または国から手厚い支援を受け、エリート教育を受けていることに並々ならぬ恩義を感じていました。国家の近代化を進めるためには理学、いまで考えると科学技術は必要な学問であると固く信じ、自らの報恩の証を「理学の普及」という形で残したいと考え、行動を起こした訳です。

その後、東京物理学校を経て東京理科大学へと改組し、現在に至ります。その間、戦前の師範学校や中等学校、戦後の中学・高校の数多くの優れた理数系教員を輩出し、我が国の教育に貢献してきました。また、特に高度経済成長期には、数多くの優秀な技術者や研究者を輩出し、「技術立国日本」の発展にも貢献して参りました。これは、学んだ専門や奉職する職業は異なっているけれども、卒業生一人ひとりの中に「未来を拓く」という建学の精神が息づいている証だと思えます。

東京理科大学で学ぶ意義、その答えを探すため、次に本学を象徴する言葉の一つをご紹介します。それは、「実力主義」です。本学では、1943 年までは入学定員を定めず、入学試験も課さず、意欲ある者全員に門戸を開いてきました。その一方で、実力がついた者だけを社会に送り出すという方針を貫きました。現在でも、ほとんどの学科で関門制度を設け、進級や卒業を厳しく判定しています。

どうして、このような厳しい方針を脈々と受け継いでいるのでしょうか？それは、本学の使命が「社会に貢献する実力」、これを備えた人材を育成することだと考えているからです。皆さんが本学で学ぶ専門分野はそれぞれ異なりますが、一人ひとりが本学で学び得たものを活用し、より良い未来を拓くために活躍して欲しいと願っています。その想いを共有することが、「東京理科大学で学ぶ意義」ではないかと私は考えています。

現在、世界は新型コロナウイルス感染症を始め、多くの課題を抱えています。国連からは、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人々が平和と豊かさを享受できるよう、SDGs と呼ばれる開発目標も示されています。これら諸課題を解決し、「より良い未来を拓く」ための実力とはどういったものなのでしょうか？

私たちは、次の4つだと考えています。

一つ、幅広い教養、正しい倫理観を備え、人々や社会が求めることに対し使命感を持って応え、世界の発展・持続に率先して貢献しようとする意志、すなわちノブレスオブリージュの精神。

二つ、高い専門性ととともに、その構築で培った論理的思考力とエビデンスにもとづく科学的思考力。

三つ、自然や社会の中から新たな問題を感知し、独自の視点で物事を捉え、柔軟な思考によって新しい学問領域やイノベーションを創出する力。

四つ、グローバルで高度に専門化した社会において、多様な人々と積極的に交わり、専門分野の壁を越えて共にものごとを創り上げる共創力。

例えば、未来の一つの姿として、「宇宙に住む」ということを考えてみましょう。宇宙ステーションやスペースコロニーは究極の循環型社会です。空気、水は再利用しなければなりませんし、食糧やエネルギーも自給しなければなりません。無駄にする余裕はまったくありません。長期の宇宙滞在を可能とする技術は、きっと地球上でも役に立ち、天然資源の消費を抑制し、さまざまな環境負荷の低減を可能とするでしょう。こういった課題については、もはや一つの学問領域だけでは対応できず、さまざまな分野の専門家が力を合わせて取り組む必要があります。また、参画する人々の「自分が未来を創る」という気概と矜持も大切です。理学、工学、薬学、経営学などを学んだ人々が分野の壁を越えて協力し、様々な課題を解決していく、そんな未来を皆さんが創ることを期待しています。

困難な状況はまだまだ続きますし、コロナ禍により大学の授業も大きく変わりつつあります。本学では、かねてより教育のデジタル・トランスフォーメーション、DXを進めてきましたが、今年度からは対面とリモートを組み合わせたハイフレックス授業を展開して参ります。これにより、学習の利便性を高め、従来よりも教育効果の高い授業を目指します。

東京理科大学に入学、進学した皆さん、私たち教職員とともに、未来に向かっ

て進みましょう。自分の未来、そして世界の未来を切り拓けるように、本学での勉学を通じて、確かな実力を培ってください。結びにあたって、「実力主義、未来のために」、この言葉を皆さんに贈りたいと思います。皆さんの大きな成長を願って、式辞とします。

2021年4月9日

東京理科大学

学長事務取扱 岡村総一郎